

## 仙台で作業部会 津波知見集約へ

IAEA、20人参加

東日本大震災で原発を襲った津波の経験を共有しようとして、学識者らで作る国際原子力機関（IAEA）のワーキンググループの会合が28日、仙台市で開かれた。今後、今村文彦・東北大学教授を中心に、3年をかけて津波に関する知見をまとめるといふ。

会合には地震、津波、原発の研究者やIAEA、米原子力規制委員会のメンバーら約20人が参加。東日本大震災の被災状況や東京電力福島第一原発の事故などについて報告があった。また、IAEAは震災を受けて、原発の立地基準の見直しに来年から着手することを明らかにした。

記者会見したIAEAのスジット・サマダー国際耐震安全センター長は「津波研究が進んでいない地域もあり、世界に知見を提供していきたい」と述べた。